

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



左：杉山総長から支部旗を受け取る岩浅支部長、上段右：第18回名古屋大学ホームカミングデイ 名古屋大学の集い：沢田蒼梧さんの演奏の様子、下段右：支援事業報告：NAFT スペースバルーン打上げ準備の様子

Left: Chapter Chief Iwasa receiving the chapter flag from President Sugiyama; Upper Right: The 18th Annual Homecoming Day Meeting at Nagoya University: Performance by Mr Sogo Sawada.; Bottom Right: NUAL Support Project: NAFT Space balloon launch preparations

Contents

特集1 全学同窓会米国支部が設立されました!... 2
NUAL United States Chapter Established

活躍する会員たち..... 4
NUAL People in Action

特集2 第18回ホームカミングデイ 報告..... 8
Report on the 18th Annual Homecoming Day

同窓会ニュース..... 9
NUAL News

事務局からのお知らせ..... 16
From the NUAL Office

特集では、名古屋大学全学同窓会米国支部の設立に至る経緯と概要を2023年1月開催の設立総会の模様とともにお伝えします。また第18回ホームカミングデイの様子と同窓会行事についても報告します。活躍する会員たちのコーナーでは、FDAのパイロットとしてご活躍の吉田さん、中部大学講師としてご活躍の梅川さんにお話いただきます。

In the special features, we will tell you about the history and overview of the establishment of the Nagoya University Alumni Association USA Chapter, along with the scene of the inaugural general meeting to be held in January 2023. We will also report on the 18th Annual Homecoming Day and Alumni events. In the NUAL People in Action column, we hear from Mr. Yoshida, who is active as an FDA pilot, and Dr. Umekawa, who is active as a lecturer at Chubu University.

全学同窓会米国支部が設立されました！

NUAL United States Chapter Established

米国支部代表幹事
NU Tech 所長
神山 知久



名古屋大学全学同窓会米国支部の設立記念総会が1月28日（土）に米国サンフランシスコのWestinホテルにて開催され、名大全学同窓会の16番目の海外支部として、米国支部が正式に設立されたところです。総会には、日本から、杉山総長、木村副総長・全学同窓会代表幹事、佐宗副総長、中野全学同窓会連携委員会委員長が参加して下さり、総長から米国支部長の岩浅邦彦氏に支部旗と認定書が手渡されました。ここでは、米国支部設立に至るまでの経緯、米国支部の概要、そして、今後の支部の活動等について、簡単にご紹介させて頂きたいと思えます。



米国支部設立に至るまでの経緯

米国には潜在的に多くの名古屋大学同窓生がいて考えられていましたが、米国のその広大さにより同窓生が色々な州に散らばっており、在米名大同窓生等の実態を把握することが難しい状況だったと言えます。そうした中、2019年1月に米国在住名古屋大学同窓生等のゆるやかな集まりとして、米国在住



(写真1) 岩浅米国支部長の挨拶

同窓生有志一同により、名古屋大学米国フレンズ（Nagoya University Friends in the States）（以下、「NU Friends」）という組織が設立されました。事務局は、名大がノースカロライナ州のリサーチ・トライアングル・パークに設立した現地事務所（Technology Partnership of Nagoya University, Inc.）（以下、「NU Tech」）が担うことになりました。

NU Friendsは定期的にNewsletterを発行したり、米国で活躍する同窓生を講師にお招きし、名大の現役学生等を対象にWebinarを開催したりするなどの活動を展開して参りました。また、米国在住の同窓生等からご寄付を募るFund raise活動も行っており参りました。こうした活動がある程度根付いてきたところ、全学同窓会から米国支部の設立のお話を頂戴し、色々な方々からご協力・ご支援を頂きつつ、NU Friendsが発展的に米国支部へと位置づけられ、この度のサンフランシスコでの正式な米国支部設立に至りました。

米国支部の概要

米国支部は、全学同窓会からのご指導も頂きつつ、また、NU Friendsの特徴も踏まえ、対象とするメンバーは名古屋大学を卒業した同窓生はもちろんのこと、名大でStudy Abroadを体験された方、名大で研究活動を行っていた方、名大で勤務されていた方など幅広い方を対象としております。また、現在、米国在住の方々に加え、日本に帰国された方、すなわち、過去に米国に在住していた方も広く対象にしています。このあたりが、他の支部とは少し異なる特徴かもしれません。

米国支部の初代支部長には、岩浅邦彦先輩に就任して頂きました。岩浅先輩は、1969年に名大理学研究科で修士号、1974年に博士号を取得され、2008年にノーベル物理学賞を受賞された小林誠先生とはご同期でいらっしゃる方です。また、副会長には、米国富士通でPresident & CEO、Executive Advisorなどの要職を歴任されておられます松本均先輩（1977年工卒、79年同修士）に担って頂けることになりました。また、もう一人の副会長には、Quinnipiac Universityの法学部で教鞭を取られているサム・エドワーズさん（2001年法学修士）をお願いしております。これらの会長、副会長を5人の幹事（榊原直人さん（2006年工卒）、ダスティン・カミングスさん（2004年医学部 Visiting Research Student）、平野夢香さん（2011年国際開発修士、2014年同博士）、エンケー・パーブさん（2020年農学博士）、そして小職が支え、私が代表幹事を務めさせて頂いております。また、NU Techが引き続き、米国支部の事務局を担わせて頂きます。

米国支部の今後の活動等

米国支部の事務局となる NU Tech の最近の調べでは、全米で名大同窓生等が少なくとも約1,300人いることがわかっております。事務局では、500人程度の米国在住同窓生等の email アドレスを入手しています。米国はととても広く、色々な州に同窓生がいらっしや、物理的に大きく離れていて難しいところがございますが、同窓生のネットワークを徐々に拡大していき、一人でも多くの米国在住の同窓生の皆さんから親しまれ、そして、気楽に参加して集ってもらえるような同窓会支部になっていくことが一つの目標です。

今後の具体的な活動内容としては、比較的に同窓生の多いサンフランシスコでの総会・レセプションの開催（毎年1月）、NU Friends 時代からの Fund raise 活動、同窓生による Webinar の継続に加え、例えば、米国在住の同窓生がメンターとなり、海外でのキャリア形成を目指す現役名大生への定期的なアドバイスを行うメンター制度、米国在住同窓生有志を募り Committee を組織し、メンバーの米国での豊富な経験・知見を活かし、名大の国際戦略や研究力強化に関する提言等を行う活動、Donation で集まったお金を原資として、現役学生、若手研究者の米国での活動を支援する Scholarship の展開、などを考えております。この記事を読まれている皆様の中で、米国在住（在



(写真2) 米国支部設立記念レセプションでの懇親の様子

住していた) 名大同窓生、関係者をご存知の方、また、米国支部の活動のアイデア・アドバイスをお持ちの方がいらっしやいましたら、是非とも、事務局の NU Tech (nagoya@tpnu.org) にご連絡頂ければ幸いです。

まだまだ、設立されたばかりの米国支部ではございますが、米国在住の同窓生の交流・親睦を図りつつ、名大の更なる国際的な発展に少しでも貢献できるよう努力してまいります。名大同窓会御関係者様、名大コミュニティの皆様からの引き続きのご支援、ご理解を賜れば誠に幸いです。



(写真3) 米国支部設立記念総会参加者の集合写真

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第39回は、経済学部を卒業しフジドリームエアラインズのパイロットとしてご活躍の吉田隆文さん、法学研究科で博士学位を取得後し中部大学講師としてご活躍の梅川佳子さんにお話しいただきます。

NUAL People in Action introduces the activities of alumni in various sectors. For this 39th instalment, we spoke to Mr. Takafumi Yoshida, who graduated from the school of Economics and is active as a pilot for Fuji Dream Airlines, and Dr. Yoshiko Umekawa, who received a doctoral degree at the Graduate School of Law and is active as a lecturer at Chubu University.

よしだ たかふみ
吉田 隆文さん



■略歴

2007年	名古屋大学経済学部卒業（根本二郎ゼミ）
2007年	日本航空 入社
2011年	日本エアコミューター 入社
2015年	フジドリームエアラインズ 入社
2018年	E170型機 機長昇格
2022年	E170型機 路線教官

学生時代について

大学では根本二郎先生のゼミに所属し計量経済学を学びました。活発なゼミで合宿や旅行も度々企画され、先生もお忙しい中私たちに付き合ってくれ、当時開催されていた愛知万博へ連れて行って下さいました。またゼミの友人達とカンボジアへ旅行へ行ったのが初めて飛行機に乗る経験となりました。就職活動における大学での企業説明会で旅客機パイロットの自社養成制度というものを知り応募したところ、日本航空（JAL）に幸運にも内定を頂くことができました。

JALでの訓練

入社後はまず地上研修の期間となり羽田空港で旅客の研修を行いました。空港での業務を通じて、飛行機を運航するために多くの人が関わっているということを学びました。

その後渡米しカリフォルニア州のナパという土地で実際の飛行機に乗って訓練を行いました。ワインが有名な場所でワイナリーも多くあったのですが、私は訓練で苦戦することとなりそれを楽しんでいる余裕はありませんでした。ナパでは事業用操縦士技能証明などの飛行機を操縦するための資格を取得するために10回ほど審査があります。もし審査に不合格となり、再審査もクリア出来なけ

ればパイロットの適正なしと判断され、次の日には荷物をまとめて日本に帰らねばならない厳しいもので、何人かの仲間がナパを去っていきました。膨大な量の訓練をこなすためには仲間との情報共有が不可欠だったこともあり、同期との結束は強まりました。また同じ名古屋大学出身の先輩が気にかけて下さったことも心強くありました。

2010年になりナパでの訓練を終了し帰国後旅客機での訓練に入るところで、かねてから経営が悪化していたJALが会社更生法の適用を申請することになりました。パイロットの訓練は中断、再開時期は未定となり、私たち訓練生は地上での旅客業務を行い待機するように指示を受けました。そんな中、JALのグループ企業であ



ナパでの訓練時代 教官、同期と

る日本エアコミューターという会社が社内でパイロットを募集するという情報があり、転籍という形で会社を移ることとなりました。入社した会社を去らねばならない難しい決断でしたが、早く旅客機を操縦したいという思いをおさえることは出来ませんでした。

フジドリームエアラインズ

2015年に JAL グループを離れ、フジドリームエアラインズ (FDA) という会社に転職することになりました。静岡空港と名古屋空港を主な拠点にする FDA は2009年に設立された新しい会社で、E170型機という小型のリージョナルジェット機を使用し、地域と地域をダイレクトに結ぶことにより地方都市の利便性を高め、就航地やその近隣地の皆様の暮らしと社会をより便利に、そして豊かにして、地域社会・経済の活性化に貢献することを目標としています。また定期便だけではなく、普段就航していない空港へのチャーター便も運航しており、北は北海道の稚内から南は沖縄県の与那国までを結ぶことで、今までにはなかった新たな機会と価値の創造にチャレンジしています。限られた条件の中で自身の知識と経験をフル稼働させお客様を安全快適に目的地へお連れ出来た時には何にも変え難い達成感があります。

バイオ燃料でのフライト

私たちの業界でも環境問題への対応は待ったなしの状況となっていますが、その一環としてバイオ燃料



関西国際空港にて FDA チャーター便の運航

(SAF: Sustainable Aviation Fuel)を積んでチャーター便の運航を担当しました。

SAF にはその原材料にユーグレナ (ミドリムシ) という藻類を使用して製造しています。航空機はその運航に多くの化石燃料を使用し二酸化炭素を排出しますが、藻が成長過程で光合成によって二酸化炭素を吸収するため、燃料を使用した際の二酸化炭素の排出量が実質的には±0となるカーボンニュートラルの実現に貢献するとされています。通常使用する燃料に数%の SAF を混合し運航しましたが違和感など全く無く、これからさらに SAF を用いた運航が増えていくと予想されます。

CBTA Program

FDA にて機長に昇格し、現在は路線教官として機長や副操縦士の昇格訓練を担当しています。

航空機の運航環境の変化に合わせて、パイロットの教育・訓練方法にも新しい試みが用いられるようになりました。日本でも2017年に国土交通省航空局より「Competency-Based Training and Assessment Program の審査要領細則」という通達が出され、世界的に広まりつつある新しい訓練プログラムを導入出来るようになりました。従来の制度は国が定める要件に従いパイロットの訓練や審査を実施してきましたが、CBTA Program は航空会社が主体となって訓練の内容を考案したり改善できる制度で、国の承認を受けて新しい訓練を施行できるようになります。従って航空会社が持つ課題に則した訓練や審査が導入しやすくなります。

CBTA Program に基づいた訓練において教官は受訓者に「教える」のではなく、「自ら学ぶ」ことを支援する役割がより重視されます。「Instructor」というより「Facilitator (促進、手助けする者)」にならなければなりません。

大学時代に卒業論文の作成で悪戦苦闘する中、私たちをあたたく見守り、アドバイスを下さった根本先生のような Facilitator を目指し、私も今後さらに努力を続けます。

うめかわ よしこ
梅川 佳子さん



■略歴

2007年 名古屋大学法学部卒業
2014年 名古屋大学大学院法学研究科博士課程修了（博士・法学）
2015年～2017年 名古屋大学高等研究院特任助教
2016年 英国ウォリック大学客員フェロー
2017年～現在 中部大学講師（現在・経営情報学部所属）

■研究業績

翻訳：ルース・アビィ『チャールズ・テイラーの思想』（名古屋大学出版会、2019年）
チャールズ・テイラー『世俗の時代』（共訳、名古屋大学出版会、2020年）
論文：「アンスコム『インテンション』とテイラーの『行動の説明』について」『思想』（岩波書店、2022年1月号）

法学部と大学院のころ

私は、2007年に名古屋大学法学部を卒業し、同大学大学院法学研究科に進みました。法学部と大学院では、指導教授の田村哲樹先生の下で学びました。先生から、寛容で、女性のハンディを忘れさせるご指導を受けることによって、私の研究のスタートが可能になりました。2014年に博士（法学）の学位を取得し、2017年より中部大学で教鞭をとりながら政治学の研究をしています。特にチャールズ・テイラーという現代カナダの思想家の作品を読み解きながら、近現代の西欧政治思想の根本的再検討を行っています。

高等研究院のころ

私は、2015年より名古屋大学の高等研究院に特任助教として採用していただきました。同大学高等研究院は、学位取得直後の若手研究者養成の点でも、極めて水準の高い制度です。世界的に活躍される理系・文系の先生の指導の下で、理系・文系の若手が、何の不安もなく、ただ研究を競いあう「研究院」であり、他に類をみない先進的な研究拠点です。私の研究の基盤は、ここで厳しく陶冶されました。法学部出身の私にとりまして、理系の若手研究者との出会いと切磋琢磨は、自分をきたえる貴重な機会となりました。



高等研究院の先生方とともに

イギリス留学のころ

イギリスでは、ウォリック大学のロースクールで、国際的に活躍するジョン・マッケルダウニー教授にフェローとして受け入れてもらいました。法学、政治学、哲学などの様々の分野の名だたる研究者による、実に親切で直接的な指導を受けたことは、その後の研究を支える重要な財産になっています。イギリスの研究生活では、アジア人差別も女性差別も感じることはありませんでした。イギリス人だけでなくフランス人やインド人などの友人ができたことも、私の研究者としての視野を一気に拡大するものでした。



ウォリック大学のマッケルダウニー教授とともに



ウォリック大学ロースクールの先生方とともに

私の研究について

私は、カナダの思想家であるチャールズ・テイラー（1931-）の思想を研究しています。カナダにおいてイギリス系の父とフランス系の母のもとに生まれたテイラーは、これまでのアングロ・サクソン系中心の思想史、あるいはフランスやドイツ系中心の思想史の、いずれに対しても違和感を持っています。テイラーは、両者に対して、根本的な再検討をするために、現在までに膨大な著書と論文を発表してきました。テイラーの研究が世界的に評価されていることは、日本の京都賞をはじめ宗教分野のノーベル賞といわれるテンブルトン賞など、世界的な賞を数多

く受賞していることからわかります。

私は、テイラー研究を通じて、英米系のホップズやロックなどから現在のロールズに至るまでの、日本にも大きな影響を与えているリベラルな思想の再検討の作業を行っています。またルソーやカントおよびヘーゲルなどの大陸系の思想の見直しの課題にも取り組んでいます。

このような西欧思想の再検討は、日本における個人主義の革新にも必要なものであり、田村先生の「熟議論」で提起されている、個人の孤立打破の課題を強く継承するものです。現代社会における諸個人のあいだの相互無関心や対立の問題は、個人のレベルだけでなく集団や国および文化や宗教の場合にも当てはまります。閉鎖的なナショナリズムや、自分の文化のみに拘泥する態度や、自ら信じる宗教一辺倒の姿勢をどのように開かれたものにしていくのか。この課題も、チャールズ・テイラーや田村先生によって彫琢されてきたものです。この面での探究にも、今後取り組んでいきたいと思っています。

英米や独仏にかぎらず、従来の思想のほとんどが男性本位であるという大きな欠陥もっています。これまで優れた古典とされてきた多くの思想に、深く突き刺さっているジェンダー・バイアスのトゲを、どのようにして抜き取るのか。この作業もおろそかにできません。性差を超越する思想の確立というテーマも、指導教授との日常的な会話の中で気づかされたものです。このような研究は、決して容易ではありませんが、今後の研究生活を賭して、達成していきたいと考えています。

このような研究をはじめることができたのは、名古屋大学の学部、大学院、高等研究院の豊かな知的環境の中で、多くの先生方や友人に支えられてきたおかげです。名古屋大学と、これまでお世話になった方々に、深く感謝しています。

第18回ホームカミングデイ報告

Report on the 18th Annual Homecoming Day

名古屋大学全学同窓会代表幹事
名古屋大学副総長
木村 彰吾



1 はじめに

令和4年10月15日（土）に第18回ホームカミングデイが開催されました。過去2回はオンラインのみによる開催でしたが、今年是对面形式を取り入れたハイブリッド形式で開催しました。

2 第18回ホームカミングデイ

今年のホームカミングデイでは、当日に向けて2つのプレ企画が開催されました。1つは8月20日開催の「めいだいいきやりあかふえ～名古屋大学卒業生オンライン交流会～」です。リモートワークでお馴染みの ZOOM のブレイクアウトルームの機能も活用し、オンラインながら充実した交流ができました。もう1つが10月7日開催の「NU3MT NAGOYA University 3 Minute Thesis competition」です。こちらは昨年度開催した「卒業生へ送る、名古屋大学の今」の発展版で、学術奨励賞を受賞した博士課程の学生が各自の研究内容を3分間で紹介するコンテストです。ZOOM ウェビナーで研究報告を視聴した方の投票によりグランプリを決定し、ホームカミングデイ当日に表彰式とエキシビジョンを行うというものです。

さて、ホームカミングデイ当日は、午前中に教育学部講演会を皮切りにスタートしました。講演会のテーマは「困難な時代の高等教育 一大学教育の質の向上と持続可能な発展をめざして一」でした。聴講された方の中には本学学生の保護者もおられ、名古屋大学の実情が理解できてよかったとご好評をいただきました。午前には、この他に各学部・研究科でも保護者懇談会が開催されました。

午後には、「名古屋大学の集い」が開催されました。今年 は全学同窓会設立20周年ということで「名古屋大学の集い」

の開催に協賛いたしました。はじめに、国際交流貢献顕彰表彰式が執り行われました。コロナ禍で受賞者の来日は叶いませんでしたのでオンラインでの表彰式となりました。3名の受賞者の中に、全学同窓会ウズベキスタン支部長のブルハノフ・アクマルさんと全学同窓会韓国支部長のチョウ・ジュンヒさんの2名がおられたので、全学同窓会として大変喜ばしいことだと思います。

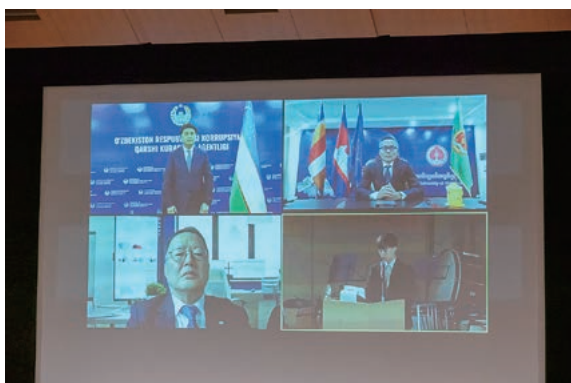
続いて、NU3MT の表彰式・エキシビジョンが行われました。10月7日開催の「NU3MT NAGOYA University 3 Minute Thesis competition」の投票結果により、日置裕介さんがグランプリ、小島慶太さんが総長特別賞に輝きました。表彰式に続き、お二人から研究内容を発表いただきました。豊田講堂でご覧になっていた参加者には研究発表が大変好評でした。中には10月7日のライブ配信を見逃したので、「NU3MT NAGOYA University 3 Minute Thesis competition」のアーカイブ配信で他の学生の研究発表もご覧になるとおっしゃる方もいらっしゃいました。

休憩を挟み、「名古屋大学の集い」は、名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートに移りました。指揮は松井慶太氏で、ピアニストは本学医学部6年生で2021年ショパンコンクールに出場した沢田蒼梧さんです。演目はラフマニノフのピアノ協奏曲第2番でした。アンコールは英雄ポロネーズが演奏されました。大変素晴らしいコンサートとなり、豊田講堂のみならずオンラインで参加された方にも大変好評でした。全学同窓会として協賛できたことは大変良かったと思います。

3 全学同窓会評議員会について

ホームカミングデイ当時に行われている全学同窓会評議員会は、対面形式を主としたハイブリッド形式で開催され、予算決算の承認や米国支部の設立などの活動が報告されました。評議員会の後に対面形式で懇談会が開催され、名古屋大学の役員にも出席いただき、引き続き役員をお務めくださる方、新しく評議員になられた方との交流や意見交換ができました。

引き続き、皆様には全学同窓会への物心両面に渡るご支援を是非賜りますようお願い申し上げます。



国際交流貢献顕彰



名古屋大学の集い コンサートの様子

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

農学部 School of Agricultural Sciences

○名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会

名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会では、名古屋大学ホームカミングデイに合わせて評議員会、総会、講演会、懇親会を開催いたします。詳細は、同窓会ホームページ (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) にてご案内いたしますので、後日ご確認ください。

連絡先：木羽隆敏（総務）

メールアドレス：kiba@agr.nagoya-u.ac.jp



2022年度講演会の集合写真（農学部創立70周年記念事業との共催）

○名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会関西支部

関西支部では、メール配信による支部同窓会報の配信を2022年3月よりはじめました。同年9月に第二回の配信をいたしております、2023年以降も3月と9月の年2回の配信を計画しております。配信ご希望の方は、下記にご連絡ください。

連絡先：セコイア会関西支部 支部長 加藤壽郎

メールアドレス：jardin-kato@hera.eonet.ne.jp

岐阜支部 NUAL GIFU Branch

令和4年度岐阜支部総会・講演会・交流会が開催されました

名古屋大学全学同窓会岐阜支部が設立されてから3年ぶりとなる支部総会・講演会・交流会が、第8波のコロナ禍中の令和4年12月11日、JR岐阜駅に隣接する「じゅうろくプラザ」で開催されました。対面とZoomによるオンラインのデュアルモードの開催となりました。Zoomの音声障害

と資料の共有に当初トラブルがありましたが、すぐに対応し、無事に総会・講演会・交流会が終了しました。

第一部の総会では、まず、小笠原文雄支部長から挨拶があり、実質2回目の岐阜支部総会・講演会・交流会を、対面と遠隔のデュアルモードで開催できることの喜びが述べられました。そして、名古屋大学全学同窓会の設立理念に従って、大学と社会をつなぐ社会貢献も今後継続したいとの挨拶がありました。

次に来賓挨拶として、杉山直総長から、19枚のスライドを用いて、「名古屋大学の挑戦」と題して、名古屋大学の現状と杉山総長プラン（Nextビジョン）などについての説明がありました。

さらに、松尾清一機構長から岐阜支部総会・講演会・交流会の開催に対しての祝辞と東海国立大学機構（名古屋大学+岐阜大学）の現状と展望について説明がありました。



左から 小笠原支部長、森島先生、杉山総長、松尾機構長

その後、議事に移り、司会の西村今日子幹事と秋山晶則事務局長によって議事が進められました。以下の3つの議案は、まとめて審議され、拍手で承認されました。

議案1 活動方針（案）

議案2 会計報告・監査報告

議案3 岐阜支部役員

第二部の講演会では、支部長の同期の森島恒雄先生（愛知医科大学客員教授・岡山大学名誉教授）をお迎えして、「新型コロナを振り返り、未来を切り開く」と題した講演をいただきました。講演は、大変時宜を得たもので、臨

床ウイルス学、とくに重症感染症の研究者として、以下の順に科学的な見地から詳しく説明されました。

- 1) コロナ禍が始まる前のウイルス性重症呼吸器感染症に係る診断・治療法の確立に関する研究（2018～2021 主任研究者 森島恒雄）から始まり、2010～2020年前後の日本の科学 / 医学研究の現状
- 2) 武漢で始まった新型コロナウイルス感染症の特徴と実態
- 3) WHOの認識の甘さによる旅行者による世界的なパンデミック
- 4) 日本における新型コロナウイルス感染症への対応に関する緊急拡大対策会議が発足したが、新型コロナウイルスの制御がなぜ難しかったか
- 5) オミクロン前後のウイルスの特徴の違い
- 6) 未来を語るときの基本的立場は、「私たちは未だ何もわかっていない」であるが、致死率が下がって、季節性の風邪コロナウイルスに向かっており、段階を踏んで日常に向けて with corona へのシフトを進めることが重要である

ある

第三部の交流会では、まず遠隔の方からのコメントをいただいた後で、対面会場でマスクをしての名刺交換と懇談が行われました。また最後に、対面会場の参加者全員の記念写真が撮られました。

(岐阜支部監事 / 全学同窓会副会長 伊藤義人)



対面参加者の記念写真

大学支援事業目録贈呈

令和4年11月11日(金)、令和4年度第3回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（令和4年度第1回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、12件の応募から、表の4件が採択されました。

事業の内容は、実施後に本誌で紹介され、全学同窓会 HP でも公開されます。

また、これまでに採択した事業を全学同窓会 HP で公開しています。

所属・職名等	申請者	事業名
名古屋大学 附属図書館長	佐久間 淳一	ライブラリ・メイカースペースによるグリーンベルトジオラマ製作及び課外活動支援
経済学部3年生（国際プログラム群グローバル30）	Wan Ching LAI (ワン チンライ)	名古屋大学模擬国連 NUMUN2023の開催
学生支援本部キャリアサポートセンター副センター長	船津 静代	在学生と卒業生をつなぐキャリアのプラットフォーム「ワタリニフネ」開設
農学部・生命農学研究科 学部長・研究科長	土川 覚	名古屋大学農学部創立70周年記念事業「名古屋大学から発信する新しい農学 ～現在・過去・未来～セコイアと共に～」



授与式の様子



集合写真

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）を支援するため、公募型の大学支援事業を実施しています。

NUAL has an open invitation type support project for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association.

名古屋大学法学部創立70周年記念行事

申請代表者：鈴木将文（申請当時 法学研究科研究科長・教授）
報告者名：増田知子（開催当時 法学研究科研究科長・教授）

全学同窓会からご支援をいただき、名古屋大学法学部創立70周年記念事業を実施いたしました。なお、本事業は2020年度実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため1年延期となり、また、10月16日（土）の記念行事は感染状況から対面での実施が難しく、残念ながらオンラインでの開催となりました。

記念行事として、2021年10月16日（土）に、オンライン（リアルタイム）で記念式典、記念講演、パネル・ディスカッション、海外同窓会とのオンライン交流会、学生模擬法律相談会、保護者説明会を行い、また、画像での展示企画（法制史資料展示、法学部の創立からの歩み、法整備支援事業など）も実施いたしました。

記念式典では、本学部と関わりの深い法曹三者の皆様からご祝辞をいただくとともに、退職教員や各界・海外で活躍する同窓生からも、ビデオメッセージなどの形で本学部への期待の言葉が寄せられました。

当日実施した各企画においては、本学部のこれまでの歩みと、果たしてきた学術的・社会的役割を振り返り、また、出身地域・国やジェンダーをはじめとする「多様性」をキーワードとしながら、今後の本学部のあり方を探ることができました。

当日の参加人数は延べ304名、アーカイブ・展示企画閲覧数は延べ370件にのぼり、本学部の同窓生、学生・教職員をはじめ、一般の方にも多数ご参加いただきました。



記念式典 増田研究科長挨拶

記念事業の一環として製作したオリジナルトートバッグは、当日参加登録をされた皆様へ送付し、今後は卒業・修了や、海外等から本学を来訪された記念にお渡しする予定です。また、本学を再訪する同窓生や本学部で学ぶ学生達、地域の皆様の憩いの場ともなるよう、教職員が協力して、法学部棟玄関前の花壇整備を行っています。

今回の一連の創立70周年記念事業は、本学部の学生を含めた現構成員の一体感を強めることに加えて、本大学同窓生、本学部と関わりの深い法曹界、さらには地域社会や、アジア法整備支援事業等を通じて卒業生・関係者の多いアジア諸国との連携を深めるための格好の機会となりました。

本事業にご支援いただきました全学同窓会の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

名古屋大学大学院環境学研究科

20周年記念行事シンポジウム

「次世代環境人材の育成-SDGsの先を目指して」

申請代表者：山岡耕春（環境学研究科 研究科長）

本事業は、環境学研究科設立20周年の記念事業としておこなったシンポジウムです。テーマは、「次世代環境人材の育成-SDGsの先を目指して」とし、2030年の実現を目指して国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）に対し、その担い手となる人材を広く社会に送り出す大学として、環境問題の解決を通じて人類の持続的発展を担う人材の育成を考えるシンポジウムとしました。本事業は名古屋大学全学同窓会大学支援事業に採択され、名古屋大学全学同窓会から支援を受けました。また、中部経済同友会、名古屋大学人文学研究科、同理学研究科、工学研究科から後援を受けました。

シンポジウムでは、環境学に関わる環境科学会会長渡辺知保氏（長崎大学教授）と環境社会学会会長牧野厚史氏（熊本大学教授）に基調講演をしていただきました。渡辺氏は「私達が決める人類の寿命」と題して「新人世」と呼ばれ始めた現在の地球環境の状況を解説され、地球環境と地球上の生物が相互作用の結果として、両者ともに変化している状況に

あること、その中で研究者は、外から環境変化を眺めているのではなく、主体的に行動する時代になったという指摘と、研究者も学生も「遊び心」が重要であるというご指摘をいただきました。牧野氏は「環境への想像力と学融合研究の将来」と題して、ご自分が関わられた琵琶湖の環境保全活動を通じた経験を説明され、そこで生まれた「生活環境主義」という概念を説明していただきました。そのうえで、さまざまな現場で起こっていることをマクロな視点で見ることの重要性をご指摘いただきました。

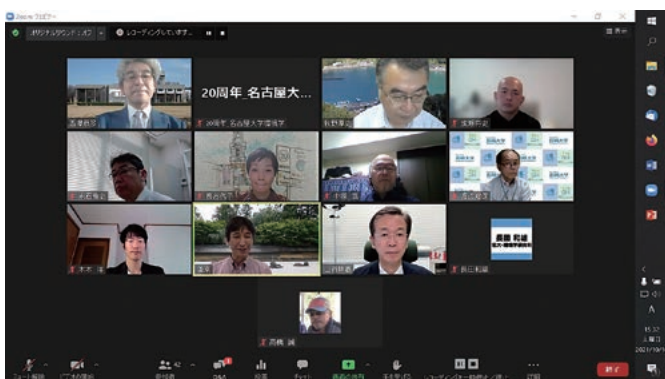
シンポジウム後半は、パネルディスカッション「次世代環境人材の育成-SDGsの先を目指して」をおこないました。基調講演をいただいた渡辺知保氏と牧野厚史氏に加え、永石雅史氏（名古屋大学工学研究科教授、元 JICA 職員）、木本洋氏／成瀬将史氏／長谷代子氏（名古屋大学環境学研究科修了生）、中塚武氏（名古屋大学環境学研究科教授）を加え、文理融合教育の現状、難しさ楽しさ、について、それぞれのお立場から語っていただきました。特に、「現場に行くと初めて分かる」というフィールドの重要性、異分野理解の前提として各自が自分の専門分野を持つこと、人材育成を進めるために大学と社会が常に連携する必要性などが指摘されました。

なお、本シンポジウムの成果として、記録集を編集しました。環境学研究科の以下の URL から見る事が出来ます。

<https://www.env.nagoya-u.ac.jp/research/pdf/sympo20.pdf>

また、20周年記念事業の一環として、記念誌の編集／発行を行いました。記念誌も、環境学研究科の以下の URL からファイルをダウンロードできます。

<https://www.env.nagoya-u.ac.jp/research/pdf/anniversary20.pdf>

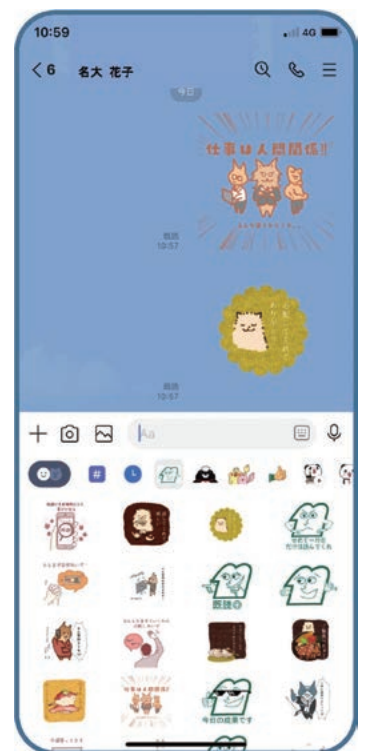


パネリスト全体の写真

「コロナ禍における体験や気持ちを語り合い つながりを取り戻そうー名大ピアサポーターと 学生支援本部による在学生・卒業生・保護 者の世代内・世代間交流の試みー」

申請代表者：杉岡正典
(学生支援本部 / 心の発達支援研究実践センター 准教授)

本事業では、全学同窓会から支援を得て、学生・卒業生・保護者の世代内・世代間の交流を促す行事をホームカミングデイに開催しました(対面とオンライン)。当日は、卒業生17名、在学生21名、保護者16名、スタッフ17名、合計71名が参加しました。まずは、在学生グループ、卒業生グループ、保護者グループに分かれていただき、それぞれのグループで「親が子に、子が親に伝えたい」事柄を自由に話し合い、いくつかの一言フレーズに集約していただきました。その後、話し合われた内容やフレーズについて皆で共有し、投票を経て24のフレーズを選出しました。選ばれたフレーズには、例えば、親から子に伝えたいメッセージとして、「既読は生存確認以上の喜びがある」「検索願ひ出しますが、大丈夫ですか?」などがありました。子から親へのメッセージでは、「ひとまず出世払いで……なんとか生きていくから心配しないで」「その常識は古すぎます」などがありました。卒業生(社会人)同士のメッセージでは、「今頑張ってます」「今日さぼっちゃった」「行きたいのはやまやまなんですけど…(泣)」などがありました。当日の交流会は大いに盛り上がり、世代内・世代間の活発な交流がみられました。親は子どもに早く自立してほしいと思いつつ、子どもの方は、そのような親の気持ちは理解しつつ、自立のために適切な距離を取ろうとしていること、などが話題となり、参加者の間で共有されていました。後日、これらの24のフレーズを4名の学生にデザインしてもらい、LINE スタンプにして参加者に無料配布しました。これらのスタンプが親子間で使われると、コミュニケーションが楽しく、かつ、円滑になることが期待されます。



HCD 企画 LINE スタンプイメージ

「オンデマンド形式に対応した新入留学生全学オリエンテーションの動画資料作成事業」

申請代表者：伊東章子
(国際機構国際教育交流センター 准教授)

新型コロナウイルス感染症の流行とそれに伴う日本入国制限のため、現時点においても大多数の留学生が渡日できていない。そのため全学オリエンテーションも従来のような対面ではなく、オンデマンド形式での資料配布の形で実施されている。

2021年11月から2022年2月にかけて参加学生を6名募集・雇用し、国際教育交流センター教育交流部門所属の国際化推進教員の指導・監督のもとで、オリエンテーション用動画を作成した。幅広く多岐にわたる新入留学生全学オリエンテーションの指導内容の中でも特に重要度が高い「名古屋大学における研究・学習」および「名古屋での日常生活」を、日本語版、英語版で計4本を完成させた。動画は2022年度春季全学オリエンテーション以降、新入留学生向け YouTube にて公開されている。

〈日本語版のリンク〉

*プレイリストには当該動画以外のものも掲載されている。

www.youtube.com/playlist?list=PL7XEBuEn6UX4jtw5XIS_vUJXP93KRAPY

〈英語版のリンク〉

*プレイリストには当該動画以外のものも掲載されている。

www.youtube.com/playlist?list=PL7XEBuEn6UX5R3WH3AJ4Q2e2w_fa1PGQt

これまではナレーション付きPPTを配布していたが、本事業で作成した動画には在籍留学生が出演し、彼らの体験を踏まえた視点で情報を提供しているため、新入留学生にとって親しみやすく、かつ理解しやすい内容になった。実際に他の全学オリエンテーションの配布資料よりも、視聴率が高いことも確認されている。入国制限が緩和され、留学生の渡日がスムーズに行われるようになって、今後の全学オリエンテーションは対面とオンデマンド形式とのハイブリッドで実施する計画であるため、本事業の成果は引き続き活用できる。



撮影の様子

スペースバルーンによる成層圏の放射線量およびオゾン測定

申請代表者：飯田怜央
(工学部 機械・航空宇宙工学科 4年生
名古屋大学宇宙開発チーム NAFT)

私たちは、2022年9月に愛媛県南部～高知県西部で行われた「えひめ宇宙フェス in 南予」および「えひめ南予成層圏気球共同実験」に参加しました。えひめ宇宙フェス in 南予は弊団体を含め、他大学の学生や高専生、高校生の団体などの計7団体が参加し、千葉工業大学の前田先生はじめとした複数の先生の指導の下行われたスペースバルーンの共同打上実験です。

今回の打上げへ向けて、弊団体は埼玉大学宇宙工学サークルあかとさとの共同プロジェクトである ANCO-project を立ち上げ、2団体による共同開発を行いました。ANCO-project の目的は、学生だけでアクセス可能であり、本格的な学術研究に気軽に挑戦できる成層圏を目指すことです。

コロナ禍において互いのチームの強みを活かしながら、自分たちの力を発揮し成層圏に挑戦したいと考えたのが、ANCO-project 立ち上げの理由です。加えてオンライン会議中心の開発により、制約の壁を乗り越えながら新しい時代の開発を実現したいという思いもありました。

名古屋大学の全学同窓会支援金をいただき、機体の制作、共同打上げへの参加費用に充てました。NAFT がオゾン濃度測定を、あかとさが放射線量測定をそれぞれ目標として機体を製作しました。機体にはGPS センサと通信モジュールを複数搭載し、バルーン破裂後の着水位置を特定できる仕様としていました。今回の打ち上げ実験では、24日に打上げ自体は成功したものの、バルーンが破裂し落下途中で通信が途切れ、落下位置のデータを取得できず、結果回収は失敗し、十分なデータが取れませんでした。しかしながら、頂上に達するまでの各データは取得することができ、さらに2022年11月8日に宇宙科学研究所で開催された「大気球シンポジウム」において、今回の打上げについて発表を行いました。本開発を通してメンバーが理学・工学的な側面のみならず、マネジメント能力などの側面でも大きく成長できました。全学同窓会からのご支援が無ければ、経済的な余裕もなく、今回のチャレンジな目標を設定することすら難しかったと感じます。このスペースバルーン打ち上げは今回の反省点に注意しながら、次年度打上げに向けて再び挑戦したいと思います。



打ち上げ前の機体

「The 2nd Nagoya University Alumni Association Thailand Branch Online Public Lectures on “Innovation for the Future: Good Practices from Nagoya University for Thailand Innovation Framework”」

チェンチタイクン・ウイラヤー
申請代表者：CHENCHITTIKUL Veeraya
(国際機構国際連携企画センター 特任助教、
バンコク事務所 副所長 / 全学同窓会タイ支部 秘書・メンバー)

2021年12月17日（金）に全学同窓会支援事業として採択された本学同窓会タイ支部主催イベント「The 2nd Nagoya University Alumni Association Thailand Branch Online Public Lectures on “Innovation for the Future: Good Practices from Nagoya University for Thailand Innovation Framework”」をオンライン形式（Zoom, Facebook Live）で開催しました。イベントはメーファールアン大学（タイ・チェンライ県）が共催し、本学のバンコク事務所が協力しました。Zoomでのオンライン参加に事前登録した48名のうち27名が参加しました。セミナーを録画したFacebook Liveの映像は2022年2月7日現在971回再生されました。なお事前登録した参加者の中の多くは教員・研究者（60%）で、その次に官僚機関と民間会社の所属（25%）です。講演していただいたのは全員本学同窓生と教員です。

講演が始まる前に、第16回（2021年度）ホームカミングデーで国際交流貢献顕彰受賞者のProf. Dr. Kitti Limsakulはオンライン参加し、タイ支部同窓会会長のProf. Dr. Siriporn Wajjawalkuより祝賀の言葉を送りました。

第1講演を行っていただいたのはタイ国内の太陽光発電の第一人者の一人であるProf. Dr. Dusit Kruengamでした。「Development of Solar Energy in Thailand and Role of Nagoya University Alumni Thai - Japanese Students; Past - Current - Future」では、1979年から名古屋大学での学生生活や学問について語り、続いてタイだけではなく、地球温暖化防止のため再生可能エネルギーの必要性について話しました。またこれまでのタイの太陽光発電の歩みについても貴重な話を聞かせてもらいました。

第2講演を行っていただいたのは本学大学院工学研究科機械システム工学専攻と未来社会創造機構モビリティ社会研究所先進ビークル研究部門長（前 研究所長）の鈴木達也 教授でした。「New Challenges for Future Energy Management System Using Electrified Vehicles」では、2011年に起きた東日本大震災後は日本のエネルギー安定確保の問題が見え始め、政府の政策として再生可能エネルギーが急速に普及しました。その中で電子自動

車の販売も誘致をつけられました。2020年においてEV用の電力の供給や伝達ケーブルが設置され、各都市で電気自動車のカーシェアリングは実現できた。またその実質データを収集し、より有効的にEVカーシェアリングシステムの充電ケーブルや充電所を計画できるようになるとのことだった。

第3講演を行っていただいたのは宇宙科学をタイの若者に分かりやすく伝えることを目標とするDr. Wares Chancharoenでした。「Space Technology ≠ Rocket and Satellite」では、「宇宙」という単語で頭に浮かぶのは宇宙船や人工衛星ではあるが、それだけとは限りません。これまで各国の宇宙プロジェクトは、宇宙にしかない無重力や高濃度の放射線がある環境で実験をすることが主な目的であります。また宇宙プロジェクトで優遇を得たのは政府機関だけではなく、一般企業でも宇宙環境で商品開発のための実験を行えます。Dr. Wares自身は多くの宇宙プロジェクトにかかわっており、最近では2021年に3Dフードプリンターで作成する食品がNASA主催のSpace Food Challengeの決勝に進出しました。最後に、若者に宇宙科学に興味を持たせるためには、宇宙とはSF小説のような現実離れしたのではなく、身近なものだとメッセージを送ることは大事だと強調しました。

第4講演を行っていただいたのは水資源の専門家のAssoc. Prof. Dr. Adichai Pornpromminでした。「Water-Energy Nexus: Towards Sustainability in the Future」、水資源と電力は相互依存関係であり、都会での水供給やかん漑システムが活動するには電力が必要である一方、発電所を冷却するために水が必要であります。また水資源は気候変動や土壌の崩れ、食料安全、環境保全などにもつながります。政府として政策を立案するためには個々の課題だけでは成り立たず、全体像で考慮しなければなりません。また経済面では“Carbon Footprint”に連動される“Water Footprint”という考えは最近出来上がりました。事例をあげると、例えば1トンの粉末あたりどれくらい水を使用したか、その使用した水



Prof. Dr. Siriporn Wajjawalku（タイ支部長）による開会の挨拶

に価値をつけ、経済的な損得計算することです。結論としては水、食料、電力、土壌、気候変動はすべてつながり、政府の役目はそれらの持続可能な政策を作らなければなりません。また最先端の技術によって水や電力の軽減も期待できます。

本講演会は、名古屋大学同窓生はそれぞれの学問や専門知識を活かし、それらの「イノベーション」はタイの社会構築に貢献するという目的に至りました。

■同窓会・大学行事カレンダー

全学同窓会、部局同窓会、及び、大学に関する行事が下記のとおり開催されます。
詳細は、全学同窓会ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/> をご覧下さい。

○関東支部

1) 東山会関東支部

(第15回東山会関東支部総会)

日時：2023年5月20日 13：00～

場所：学士会館

連絡先：支部長 平澤 一範

E-mail：allex-sai2@ezweb.ne.jp

講演題目：SDGs に貢献する新しい半導体

連絡先：岐阜支部事務局

E-mail：2019nugaa@gmail.com

<https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/gifu/index.html>

※詳細については、ホームページ等でお知らせいたします。

2) 東京キタン会

(定期総会)

昨年同様、Web による開催とします。2022年度の事業報告・決算報告と2023年度の事業計画・予算を審議します。

日程：2023年6月24日（土）

連絡先：東京キタン会事務局 宮坂典男

E-mail：info@tokyo-kitankai.com

(秋の催事)

秋の開催を予定しています。企画が決まりましたら改めてお知らせ致します（昨年度同様コロナの状況によっては中止と致します）。

日程：2023年10～11月に開催の予定（詳細未定）

開催場所：未定

連絡先：東京キタン会事務局 宮坂典男

E-mail：info@tokyo-kitankai.com

(東京キタンゴルフ会コンペ)

秋の開催を予定しています。日程が決まりましたら改めてお知らせ致します（昨年度同様コロナの状況によっては中止と致します）。

日程：2023年10～11月の土曜日予定

開催場所：東京国際ゴルフ倶楽部（東京都町田市）

連絡先：東京キタンゴルフ会幹事 高井祥臣

E-mail：yoshiomit8@yahoo.co.jp

3) 名大鏡友会東日本支部

(令和5年総会)

令和5年度総会を開催予定です。万障繰り合わせの上、ご参集ください。

開催日時：2023年6月3日（土）13時～（受付開始12時30分）

開催場所：東京都千代田区 学士会館

総会後の講演会：生命分子工学専攻 馬場嘉信教授

総会、講演会後には懇親会を予定しておりますが、詳細は別途ご案内いたします。

主催：名大鏡友会東日本支部

<http://www.chembio.nagoya-u.ac.jp/kyoyu-kai/shibu.html>

○岐阜支部

名古屋大学全学同窓会岐阜支部令和5年度総会・交流会・講演会

日時：令和5年5月6日（土）11：00～16：30

場所：じゅうろくプラザ（JR 岐阜駅隣接）

○総会・交流会 5階大会議室

○講演会 2階ホール

講演者：天野 浩

名古屋大学 未来材料・システム研究所

未来エレクトロニクス集積研究センター長・教授

○農学部同窓会

・セコイア会関東支部『新卒者歓迎会』

農学部・生命農学研究科を今春卒業され関東地区に居住する方を対象に、歓迎昼食会を開催します（参加費無料。申込み順に10名まで）。新型コロナの状況によっては予定を変更する場合があります（支部 HP でお知らせします）。

日時：2023年6月10日（土）11：00～15：00

場所：学士会館（東京都千代田区）の名大連絡所とレストラン「二色」（予定）

内容と申込方法：支部 HP に詳細を掲載します。

支部 HP：⇒ <http://www.nua-alumkanto.sakura.ne.jp/>

担当：支部事務局長 春日井治

E-mail：1209cebaw@jcom.zaq.ne.jp

・名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 評議員会

日時：2023年10月21日（土）お昼前後

場所：名古屋大学農学部

連絡先：木羽隆敏（総務）

E-mail：kiba@agr.nagoya-u.ac.jp

・名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 総会・講演会

日時：2023年10月21日（土）午後より

場所：名古屋大学農学部

会費：無料（講演会は一般に公開いたします）

講師：藤井 潔（ふじい きよし）氏

昭和54年3月農学部農学科卒業 愛知県米麦振興協会

演題：『母校が教えてくれた「見果てぬ夢」へのチャレンジ精神』（仮）

連絡先：木羽隆敏（総務）

E-mail：kiba@agr.nagoya-u.ac.jp

・名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会 懇親会

日時：2023年10月21日（土）夕刻より

場所：名古屋大学農学部（予定）

連絡先：木羽隆敏（総務）

E-mail：kiba@agr.nagoya-u.ac.jp

・名古屋大学農学部・生命農学研究科同窓会関西支部同窓会

日時：2023年11月11日（土）10：00～15：00

場所：未定

連絡先：セコイア会関西支部 支部長 加藤壽郎

E-mail：jardin-kato@hera.eonet.ne.jp

注) コロナ禍の状況により、実施できないこともありますのでご容赦ください。

訃報

豊田章一郎名誉会長が令和5年2月14日にご逝去されました。豊田名誉会長は、名古屋大学全学同窓会の「社会と大学を結ぶ組織」という理念にご賛同いただき、平成14年10月の名古屋大学全学同窓会創設時から、令和2年10月までの18年間、名古屋大学全学同窓会会長を務められました。

会長在任期間中に、4つの国内支部、15の海外支部の設立にご尽力いただき、また、大学支援事業の実施、同窓会カード（名古屋大学カード）の発行、大学内での講演会や寄附講義の実施等、大学と一体になっての情報発信や各種活動の展開に多大なる貢献をいただきました。

大学全体と卒業生・修了生のつながりをより強め、名古屋大学と社会の発展に貢献したいとの豊田名誉会長のお考えを引き継ぎ、全学同窓会が同窓生の皆様の心の拠り所となり、いつまでも名古屋大学の卒業生であることに誇りを持っていただきたい所存でございます。

豊田名誉会長のこれまでの名古屋大学全学同窓会へのご貢献に対し、心から感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。
名古屋大学全学同窓会会長 柴田昌治

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

○お支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

自動引落利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

「名古屋大学カード」の入会のご案内

～名古屋大学カードで繋がる大学支援～

全学同窓会は、同窓生と母校との連携強化・大学支援の充実を目指し、「名古屋大学カード」を発行しており、利用金額の一部が同窓会に還元されます。

◆名古屋大学カード～ゴールド～

入会者は**19,000名**を超えています。



年会費永年無料! 家族会員様も1名様に限り無料。
ポイントがたまる! 家族会員様のご利用分もまとめて本会員様へ付与。

- 国内・海外旅行傷害保険付帯 最高3,000万円
- ショッピング保険 年間補償限度額 200万円
- 空港ラウンジサービス

入会方法について

- ① WEBからのご入会をご希望の方
名古屋大学全学同窓会 HP からお申込みください
⇒ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>
- ② 入会申込書からのご入会をご希望の方
名古屋大学全学同窓会へ入会申込書をご請求ください
⇒ TEL/FAX : 052-783-1920 (受付: 9:00~17:00)

- カード優待サービス企業の紹介 <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/information/OBservice.html>
- カード優待サービスの企業を募集しています。 詳細は全学同窓会事務局へお問い合わせください。

編集後記

本同窓会豊田名誉会長の訃報に接し、心よりお悔やみ申し上げます。

待望の本同窓会米国支部が設立されました。代表幹事の神山先生には設立に至るご尽力の様子や将来についてお寄せいただきました。同窓生の皆様には本同窓会へのお支えを頂きますようどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter

No.39 令和5 (2023) 年3月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@adm.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <https://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集: 名古屋大学全学同窓会広報委員会

